

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

13章 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術

4節 与薬のための援助技術 2項 与薬法 p.374 plus α 「注射法による違い」

【誤】

plus α
注射法による違い

薬の吸収速度：静脈内注射、点滴静脈内注射＞筋肉内注射＞皮下注射＞皮内注射

薬の作用持続時間：点滴静脈内注射＞皮下注射＞筋肉内注射＞静脈内注射

投与できる薬剤の量：点滴静脈内注射＞静脈内注射＞筋肉内注射＞皮下注射＞皮内注射

【正】

plus α
注射法による違い

薬の吸収速度：静脈内注射、点滴静脈内注射＞筋肉内注射＞皮下注射＞皮内注射

薬の作用持続時間：皮内注射＞皮下注射＞筋肉内注射＞静脈内注射

投与できる薬剤の量：点滴静脈内注射＞静脈内注射＞筋肉内注射＞皮下注射＞皮内注射

13章 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術

4節 与薬のための援助技術 2項 与薬法

p.375 表13-17 注射の種類ごとの薬液量・注射部位・吸収速度

【誤】

表13-17 注射の種類ごとの薬液量・注射部位・吸収速度

分類	薬液量	注射の深度	吸収速度	持続性
皮内注射	約0.02～0.1mL	表皮と真皮の間	遅い ↑ ↓ 速い	長い ↑ ↓ 短い
皮下注射	約0.1～2mL	皮膚と筋層の間の皮下組織		
筋肉内注射	約5mL	筋層内		
静脈内注射	約20mL以下(50～100mL程度なら点滴静脈内注射をするのが一般的)	静脈内		
点滴静脈内注射	約50mL～大量の薬液を継続的に滴下して投与	四肢の末梢静脈内 上大静脈内(中心静脈内)		

【正】

表13-17 注射の種類ごとの薬液量・注射部位・吸収速度

分類	薬液量	注射の深度	吸収速度	持続性
皮内注射	約0.02～0.1mL	表皮と真皮の間	遅い ↑ ↓ 速い	長い ↑ ↓ 短い
皮下注射	約0.1～2mL	皮膚と筋層の間の皮下組織		
筋肉内注射	約5mL	筋層内		
静脈内注射	約20mL以下(50～100mL程度なら点滴静脈内注射をするのが一般的)	静脈内		
点滴静脈内注射	約50mL～大量の薬液を継続的に滴下して投与	四肢の末梢静脈内 上大静脈内(中心静脈内)		

ナーシング・グラフィカ
 基礎看護学③『基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術』 正誤表

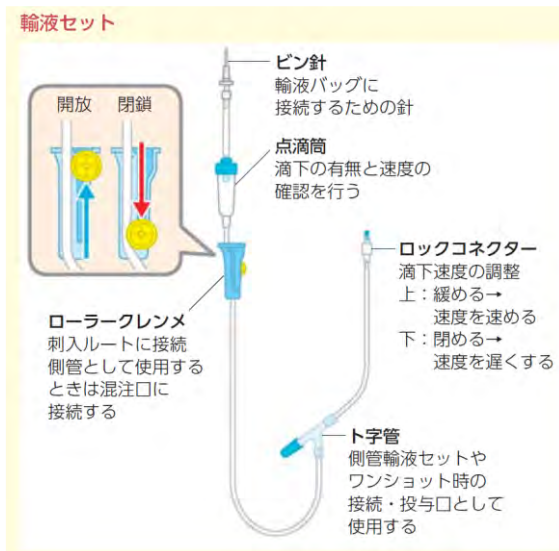
第1版第1~2刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

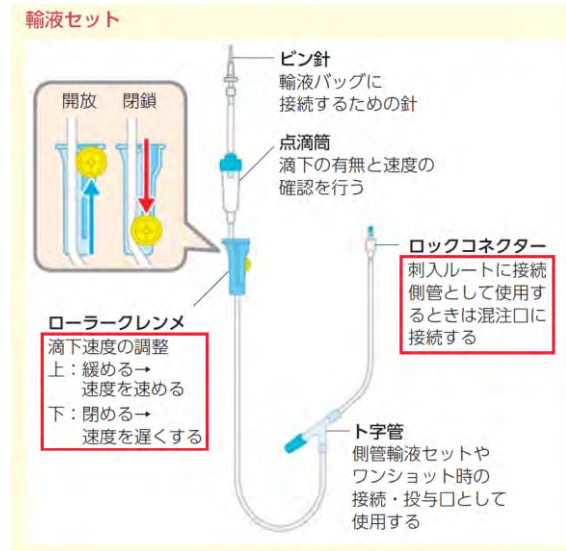
13章「与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術」 5節「注射のための援助技術」
 4項「注射の実際」

p. 400 注射法⑥ 輸液療法

【誤】



【正】



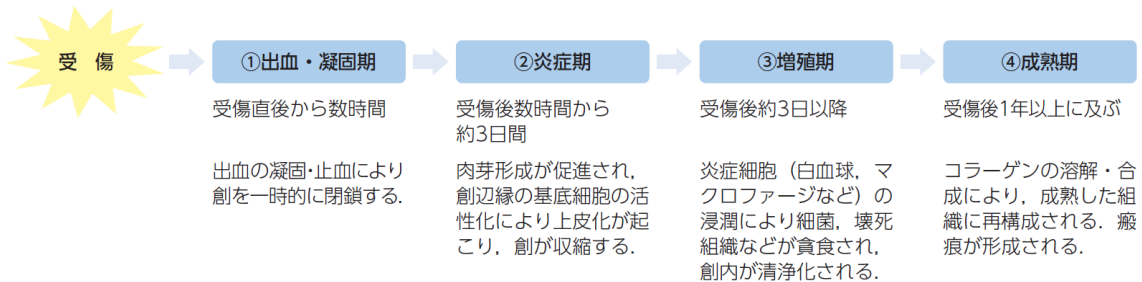
以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

12章「皮膚・創傷を管理する技術」 2節「創傷の分類と治癒過程」

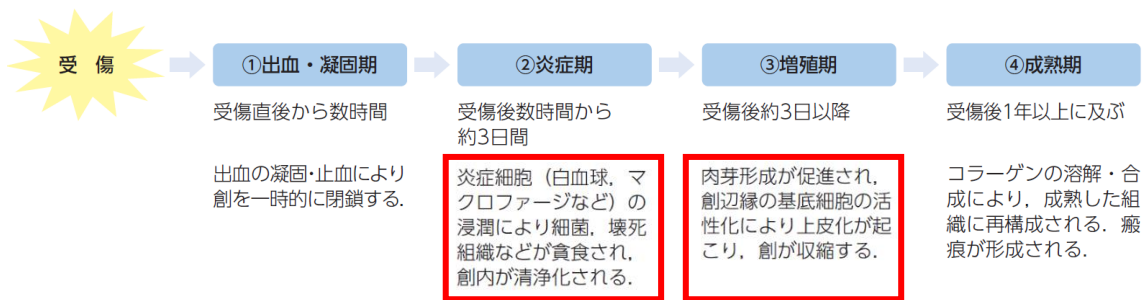
3項「創傷治癒の過程と形式」

p. 335 図 12-3 創傷治癒過程

【誤】



【正】



ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③『基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術』 正誤表

第1版第1～2刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

10章「呼吸を楽にする技術」 5節「呼吸を楽にする援助」
4項「吸引」

p. 302 下から2行目

【誤】 25hPa (25cmHg) を超えないようにする

【正】 25～30cmH₂O とする

p. 303 上から9行目

【誤】 1回の挿入開始から終了までの時間は20秒以内、

【正】 1回の挿入開始から終了までの時間は15秒以内、

ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③『基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術』 正誤表

第1版第1刷

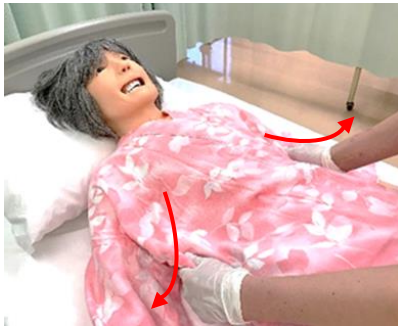
以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

9章「身体の清潔を援助する技術」 8節「清潔の援助方法」

9項「寝衣交換」

p. 283 清潔の援助⑨ 和式寝衣を着用する臥床患者の寝衣交換

【誤】



【正】



ナーシング・グラフィカ
基礎看護学③『基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術』 正誤表

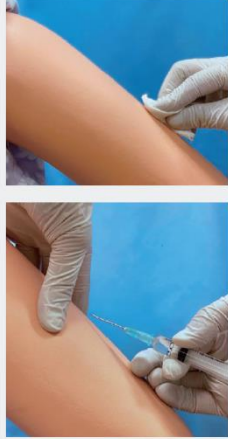
第1版第1刷

以下の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

13章「与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術」 5節「注射のための援助技術」
4項「注射の実際」

p. 391 注射法⑤ 皮内注射内

【誤】



⑩ 注射部位を中心に外側に円を描くようにアルコール綿（1枚目）で消毒し、刺入部位を清潔に保ったまま、アルコールを自然乾燥させる。


⑪ 注射針のキャップを外し、注射器を利き手で把持する。

⑫ 利き手と反対の手で、消毒部位に触れないよう、穿刺部位の5cmくらい下の皮膚を末梢に向かって伸展させる。

注射器は母指と示指で外筒を持つ。注射器を安定させるため、患者の腕に注射器を持っている側の残りの指を当てる。

皮膚を伸展させることによって、刺入時の疼痛刺激をできるだけ少なくすることができる。

【正】



⑩ 注射部位を中心に外側に円を描くようにアルコール綿（1枚目）で消毒し、刺入部位を清潔に保ったまま、アルコールを自然乾燥させる。

⑪ 注射針のキャップを外し、注射器を利き手で把持する。

⑫ 利き手と反対の手で、消毒部位に触れないよう、穿刺部位の5cmくらい下の皮膚を末梢に向かって伸展させる。

注射器は母指と示指で外筒を持つ。注射器を安定させるため、患者の腕に注射器を持っている側の残りの指を当てる。

皮膚を伸展させることによって、刺入時の疼痛刺激をできるだけ少なくすることができる。